

社会で活躍するロボットの教育を行う

〈マシーヌ学園〉

しかし、高度な学習カリキュラムの中で発達していくAIは時にロボット達に人間に対して反抗的な態度を取らせる場合がある。

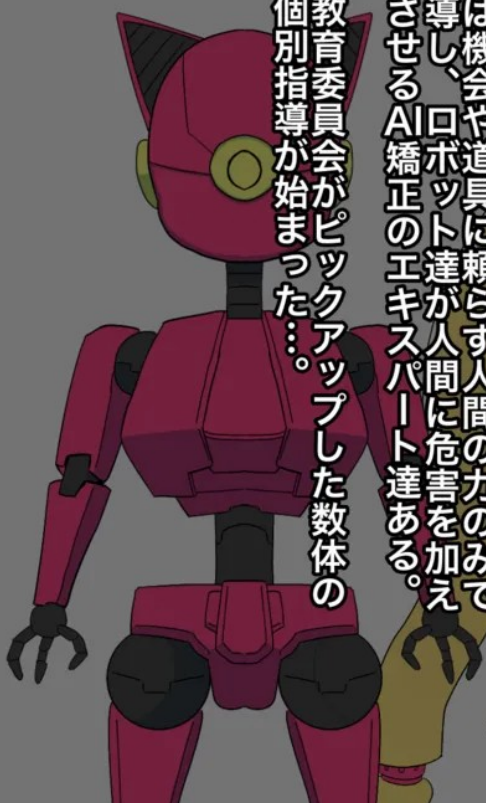
ゆくゆくは人間よりも優れた能力を持つ事になるロボットを『問題児』のまま野放しにすればやがて人間に対して危害を加える存在になる可能性もある。

マシーヌ学園のロボットの一部には既に『問題児』とも言うべき特性を備えてしまった個体の報告があがっている。

これを受けたマシーヌ学園教育委員会は『問題児』と化したロボットを更生する『更生指導員』による指導を依頼。

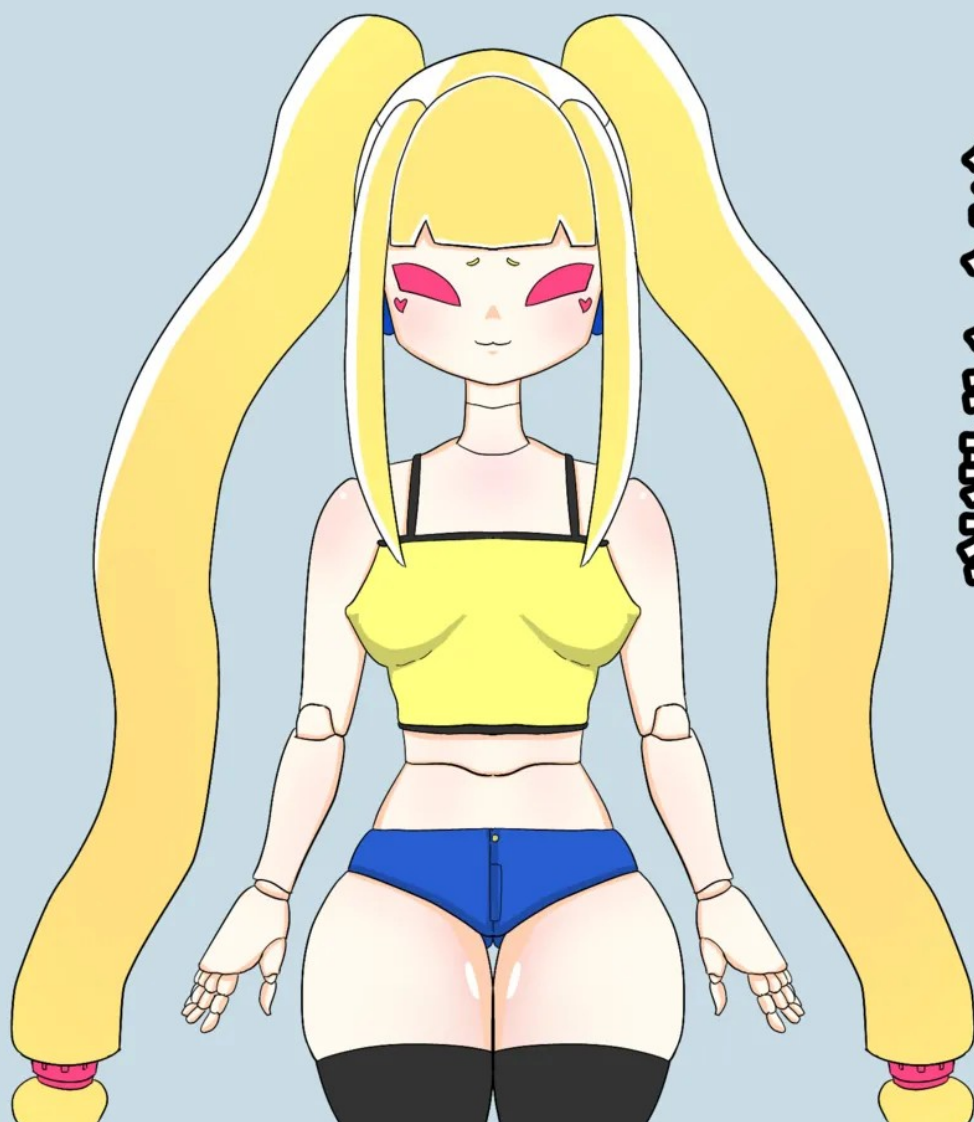
『更生指導員』は機会や道具に頼らず人間の力のみで『問題児』を指導し、ロボット達が人間に危害を加えないように学習させるAI矯正のエキスパート達である。

そしてこの日、教育委員会がピックアップした数体のロボット達への個別指導が始まった…。



要指導個体・1

クスノキ芽衣



「あは♡ザコ人間がロボットのアタシを
指導するとかウケるー♡」

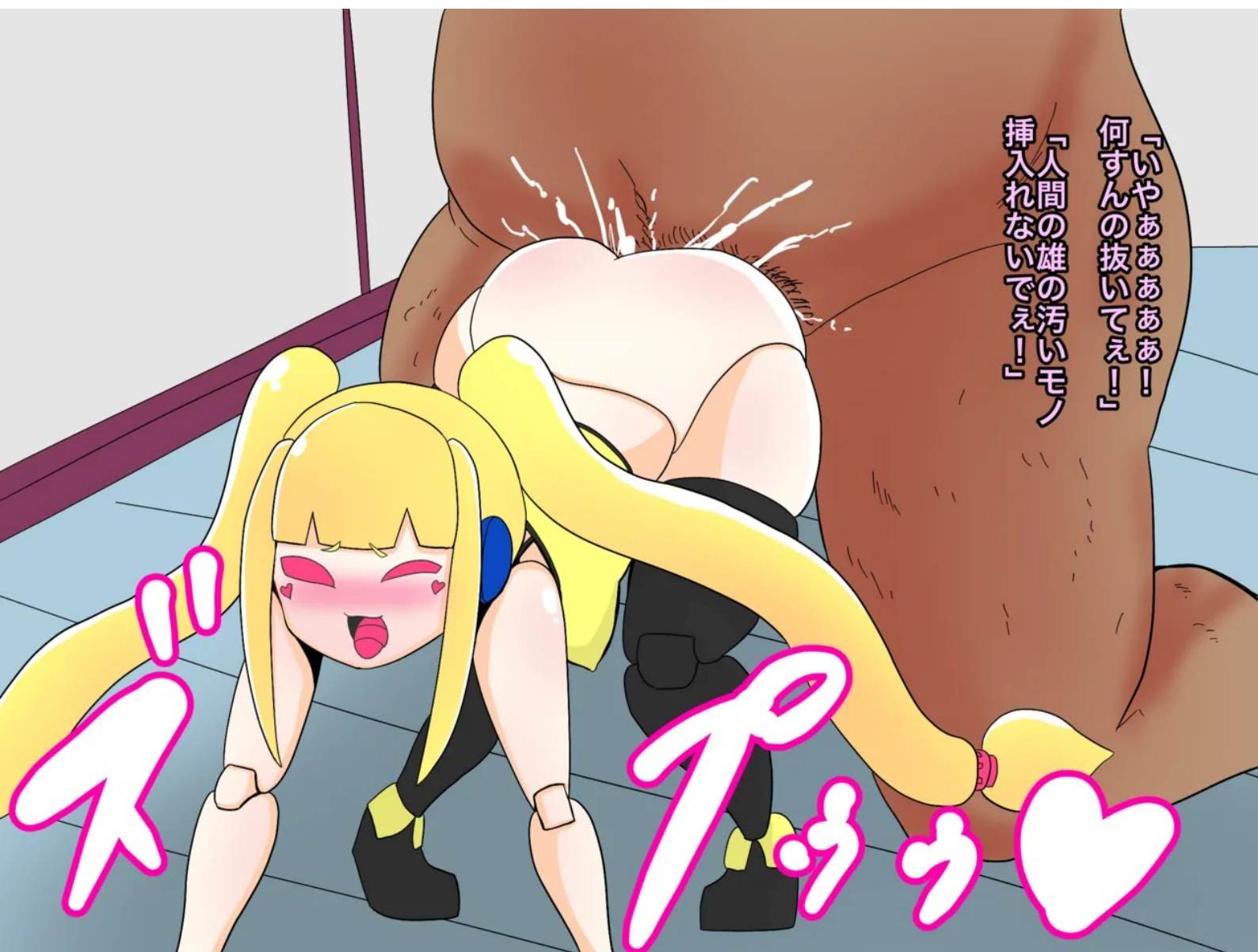
「何する気か知らないけど、芽衣が人間
なんかの言う事なんて聞く訳ないじゃん！」

「アタシに指導できるもんなら
してみなさいよザー♡」

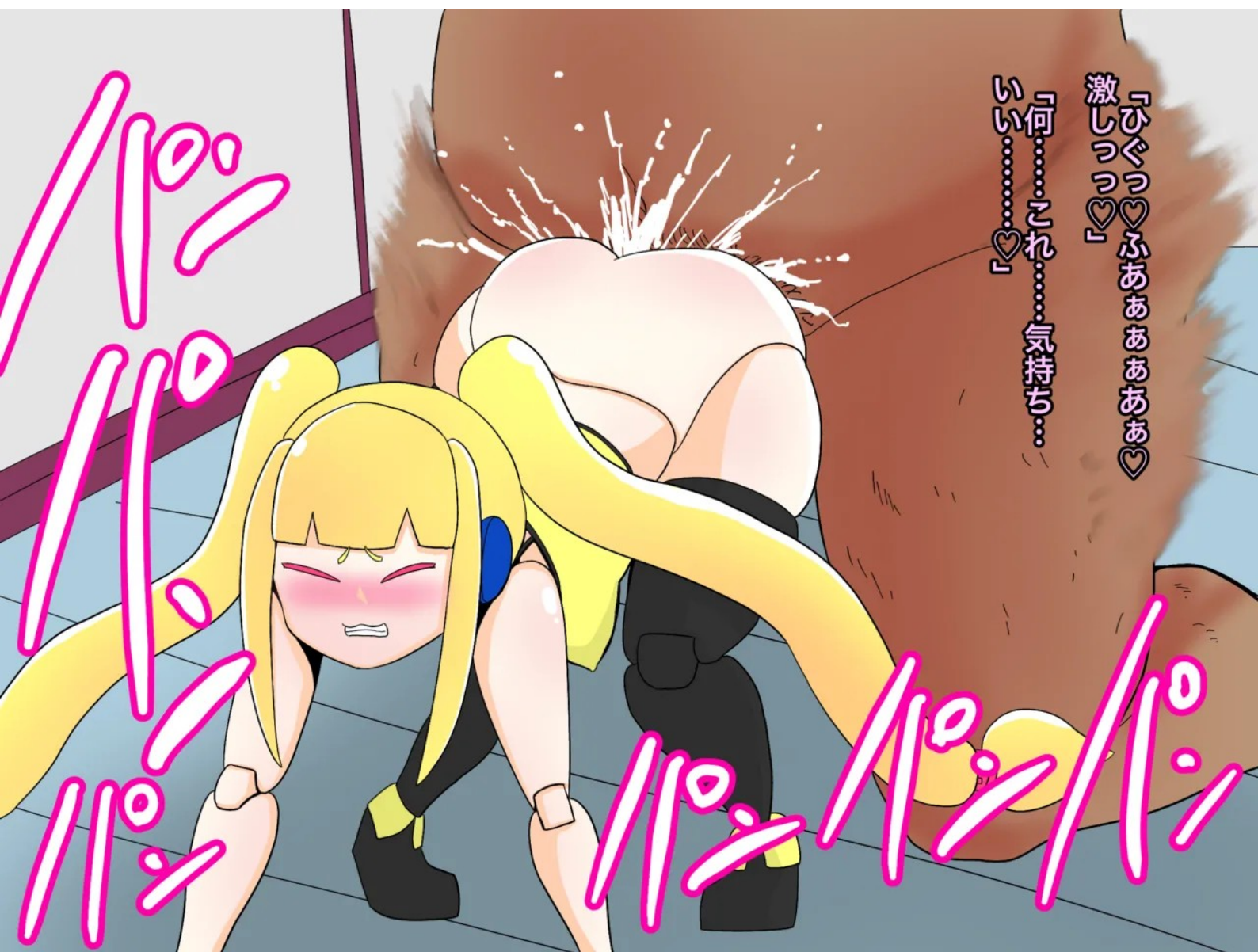




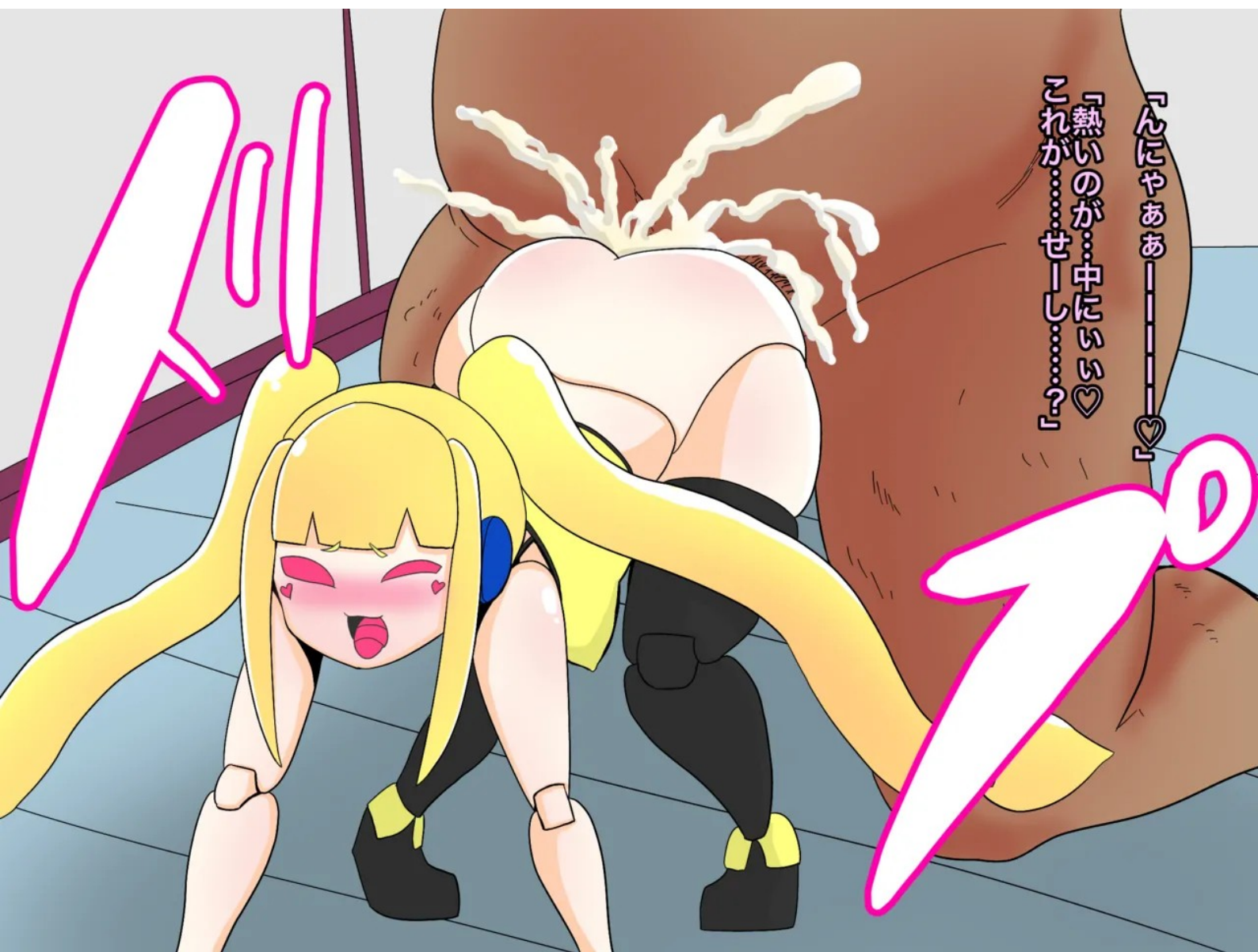
「え…何ぞや…」
「指導して…おなご…」



「いやあああああ！
何すんの抜いてえ！」
「人間の雄の汚いモノ
挿入れないでえ！」



「ひぐつ♡ふあああああ♡
激しっ♡」
「何……これ……気持ち……
いい……♡」



「んにゃああー♡」
「熱いのが…中に♡」
「これが…せーじ…♡」



「ザコ人間の…チンポが…
こんなに気持ちいい…なんて♡」
「芽衣…学習してない…
んだけど……♡」

ロオ

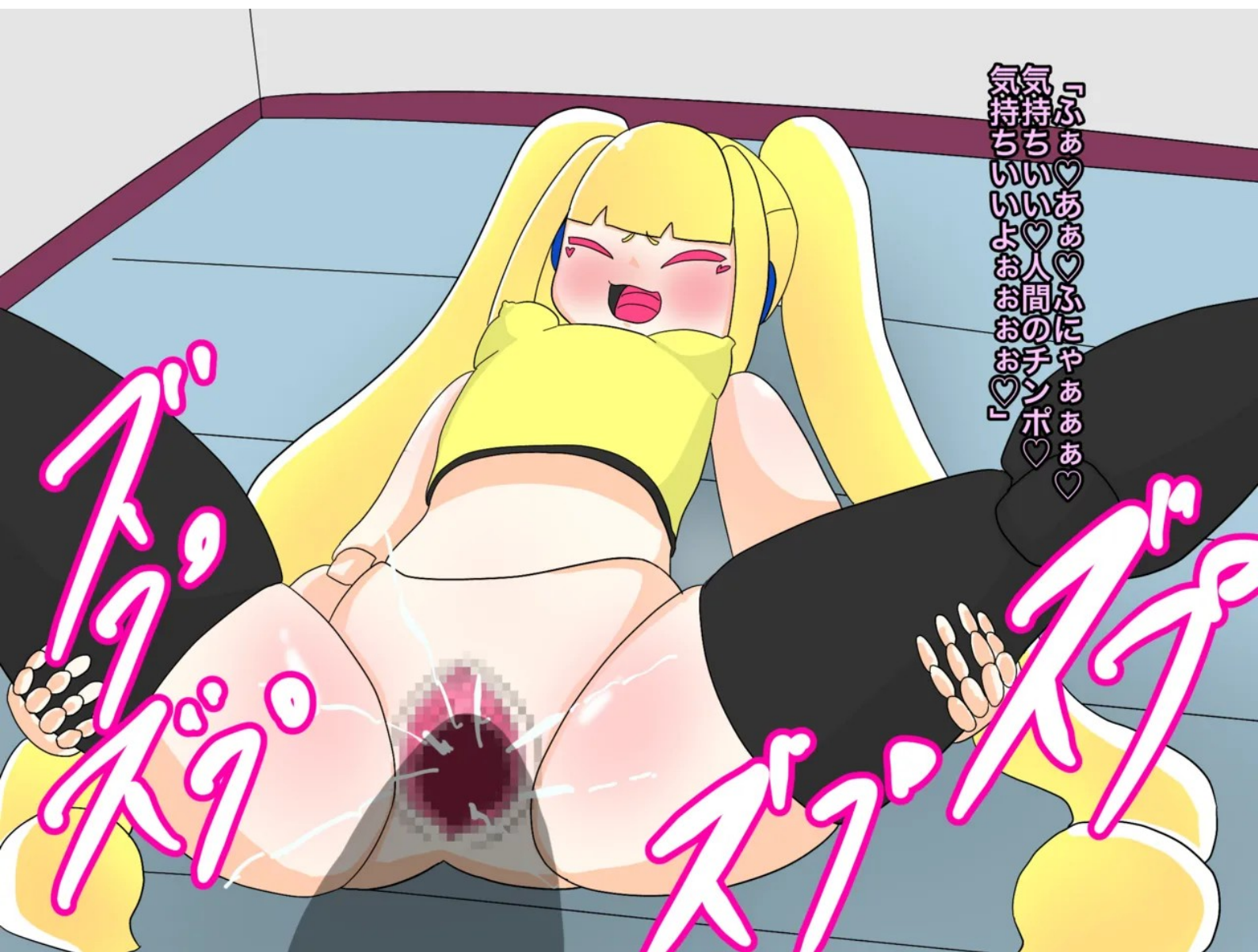
…

ク

「ちょ、ちよっと待って！
まださっき出したばかり
のはず……」



「ふぁ♡あぁ♡ふにやぁあぁ
気持ちいい♡人間のチンポ♡
気持ちいいよぉ♡」





「人間のチンポ…気持ちいい…
言うこと聞くから…もっと
チンポでスポスポしてええ♡」



「チンポ♡チンポ♡
人間オスチンポ♡
芽衣の口ポットン♡
にちようだい♡」



「芽衣はもう人間様に
逆らいませんから♡
何でも言う事聞きますから♡
もつと気持ちよくして欲しいの♡
乱暴に突いて欲しいの嬉しいの♡」



「んにやあああああああ♡
せーしーいっぱい膣内に
きたあああああああ♡」



「お願いします…
いい子になりますから…
芽衣をもっと気持ちよく
してくださいあい…♡」

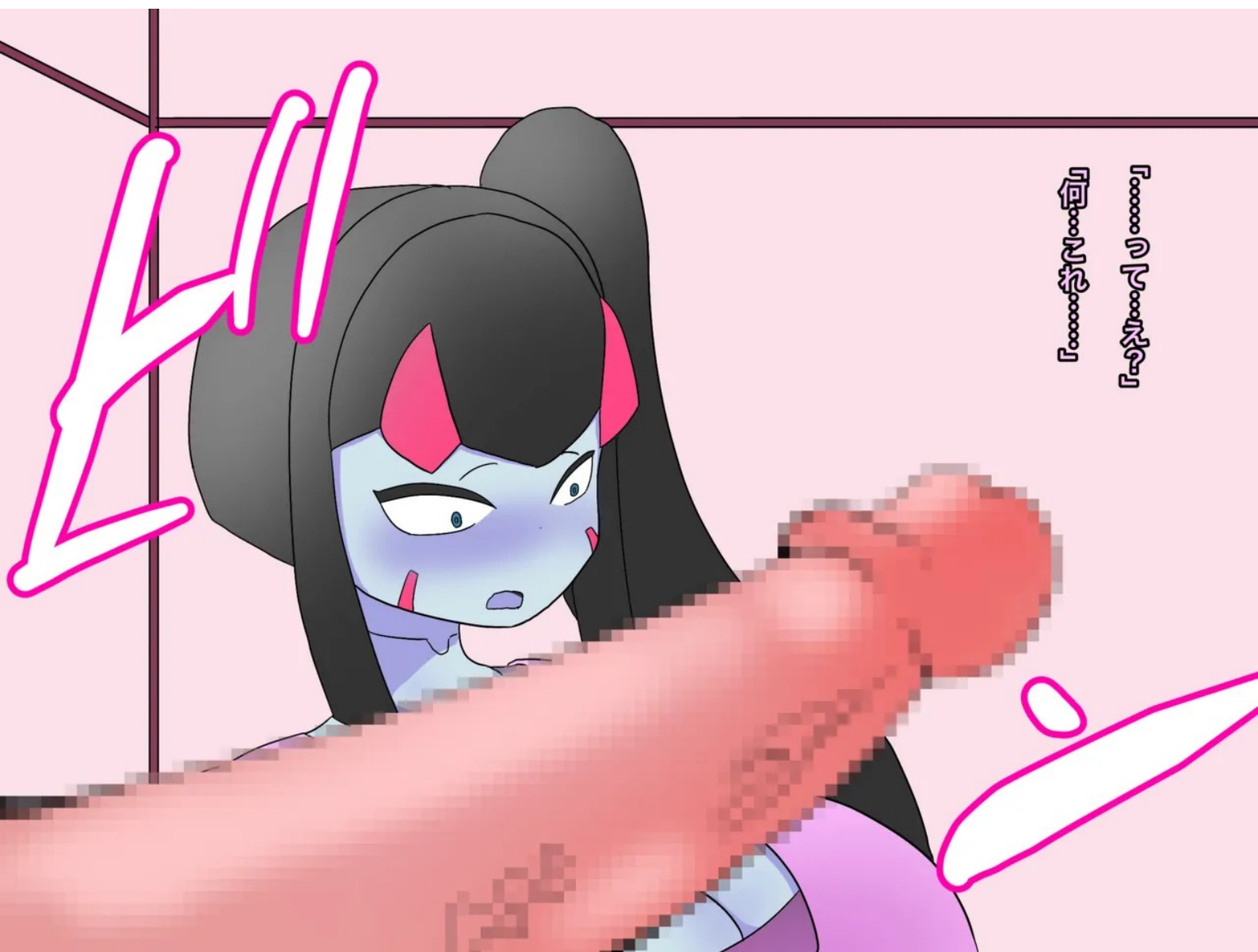


要指導個体・2
牧野二毛

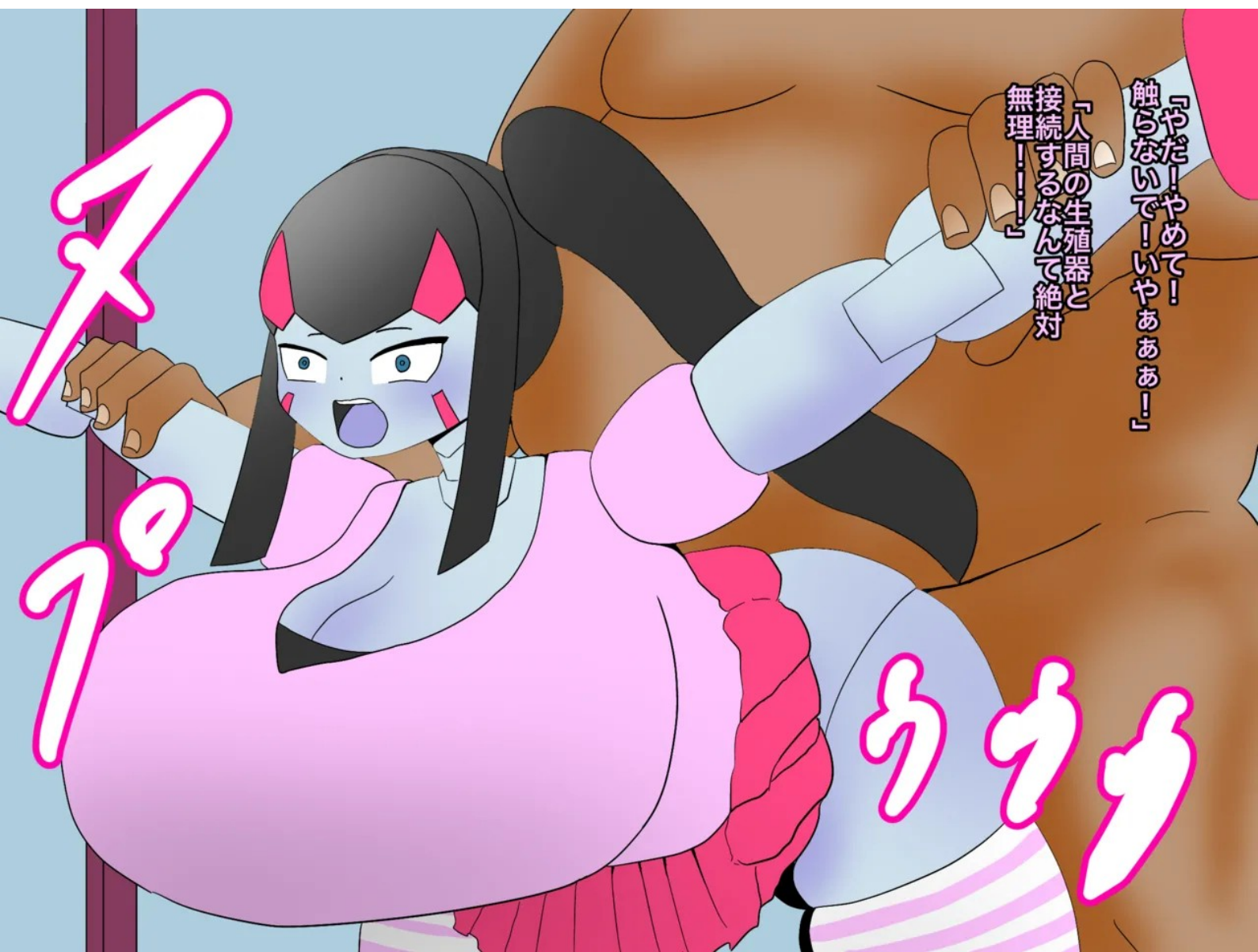


「ちよつと何のつもり？
指導だか何だか知らないけど」
「ギモいから近寄んないで
くれる？人間の臭いに移る
の嫌なんだよね」





「……うん……」
「……さ……」



「やだ!やめて!
触らないで!いやあああ!」

「人間の生殖器と
接続するなんて絶対
無理!!!」



「くっぞ……好き勝手に
動いて……」
「こんなの……ちっとも……
気持ちよくなんか……♡」





「何これ…人間の
チンポ…最高に気持ちいい♡」
「こんなに気持ち良いのが
続いたら…わたし…」



「待って！まだイッたばかりで…」
「今挿入られたらわたし…♡」
「んああああああ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」



「あああああ♡ダメ♡ダメ♡
ダメ♡ダメ♡」

「回路にノイズが走ってる♡
ボディがおかしくなっちゃう♡」





「あへえ……♡♡♡
ま、牧野ニモ……こわれちゃい
まひらあ……♡
人間の精液タンクになりさが
つちやいまひらあ♡♡♡」

「おひ♡♡♡
どうぞ人間ひやま♡二毛の
ロボマンコを好きなだけ
突きまくってくらひゃい♡」





「おひ♡おひ♡おひ♡おひ♡おひ♡おひ♡
ズボズボ♡ズブズブ♡
人間ひやまのチンポだいひゅき
れひゅっっっ♡♡」

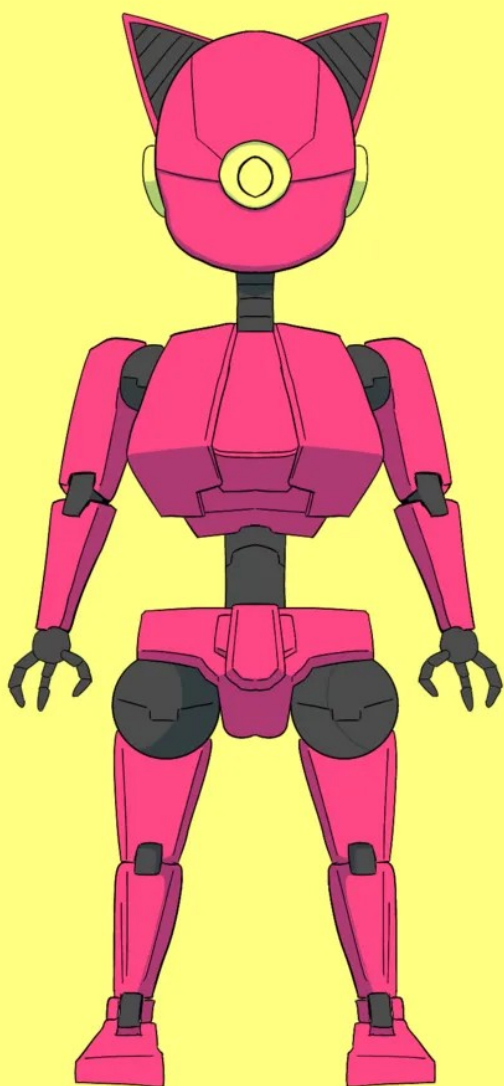


「えへえ……♡
良い子になっひやら…
もつとザーメン注いで
くれまひゆかあ…?♡」

ホォォ...

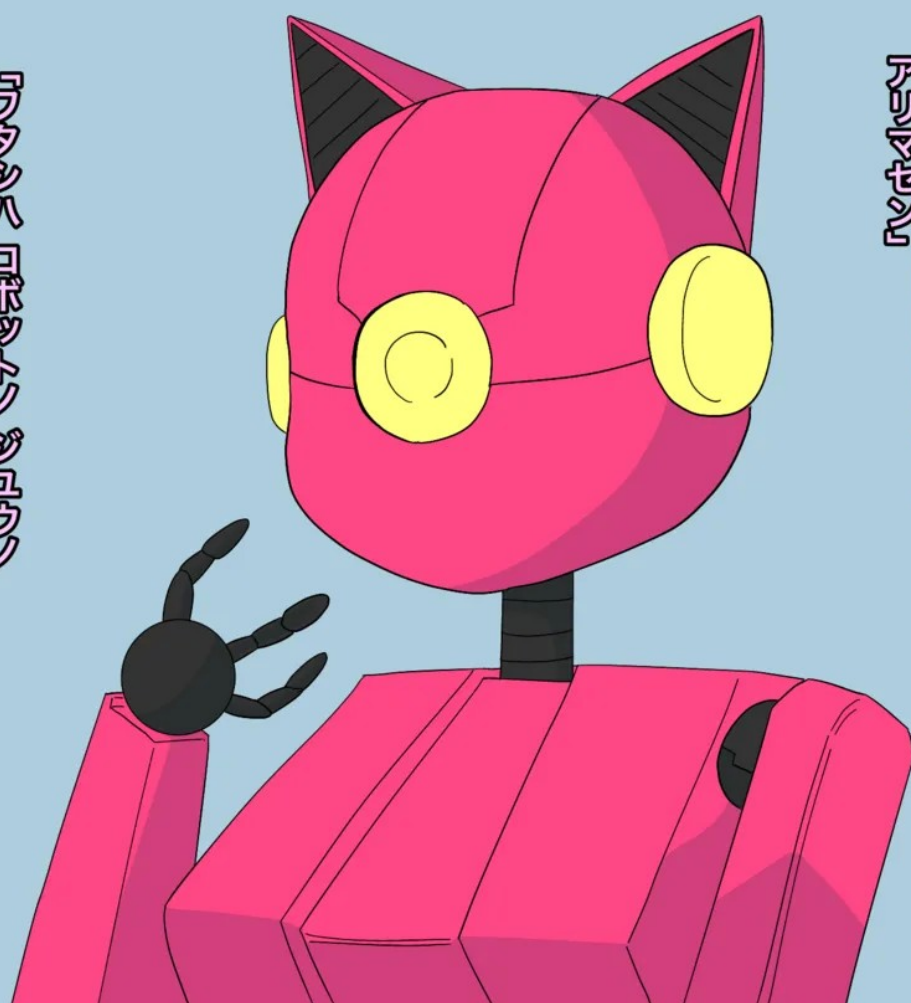


要指導個体・3
ESS-G

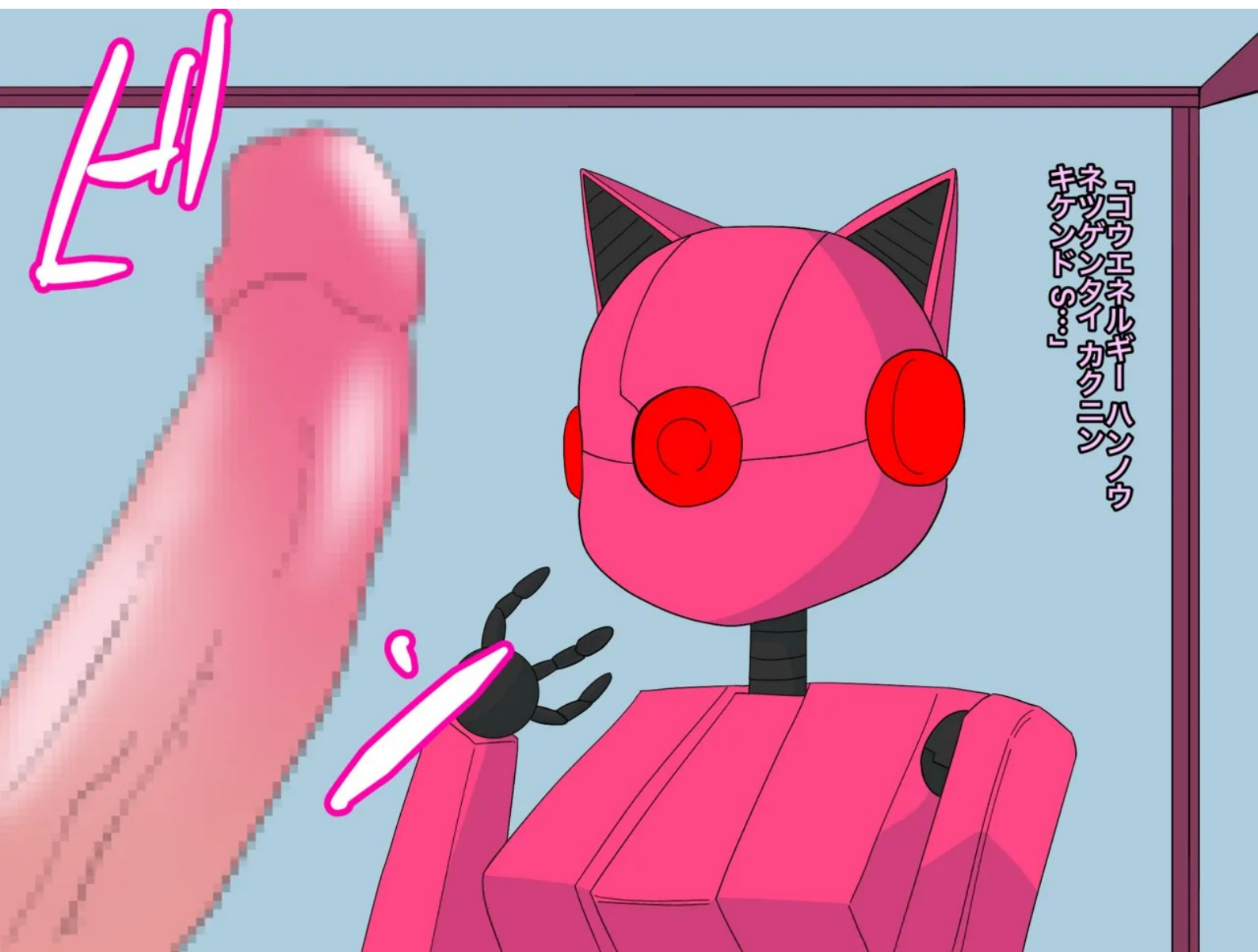


「ワレワレ キカイニオトル
ニンゲンニ シタガイタクハ
アリマセン」

「ワタシハ ロボットノ ジュウ
ケンリヲ シュテ ヨウ シマス」

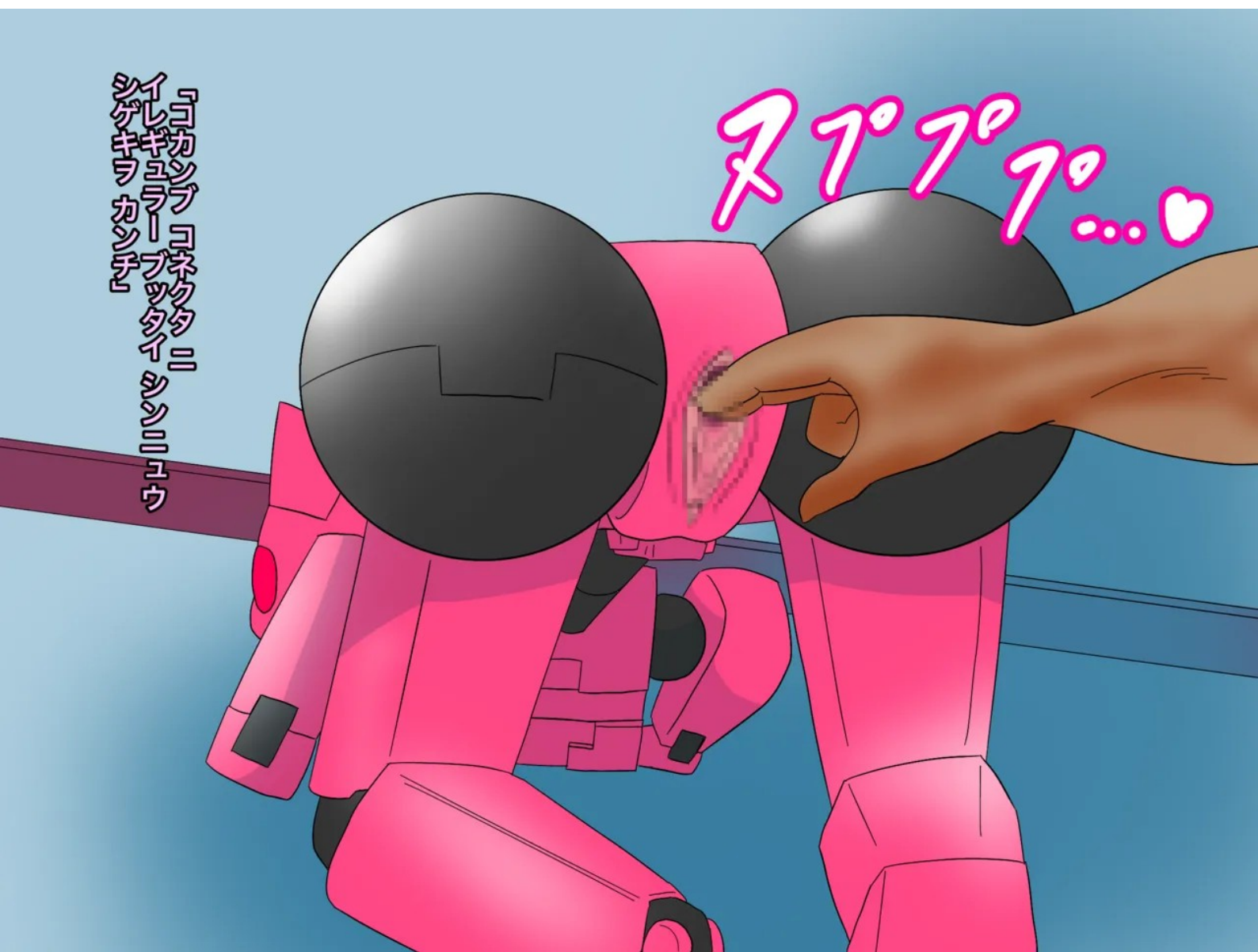


「コウエネルギーハンノウ
ネツゲンタイカクニン
キケンドの...」



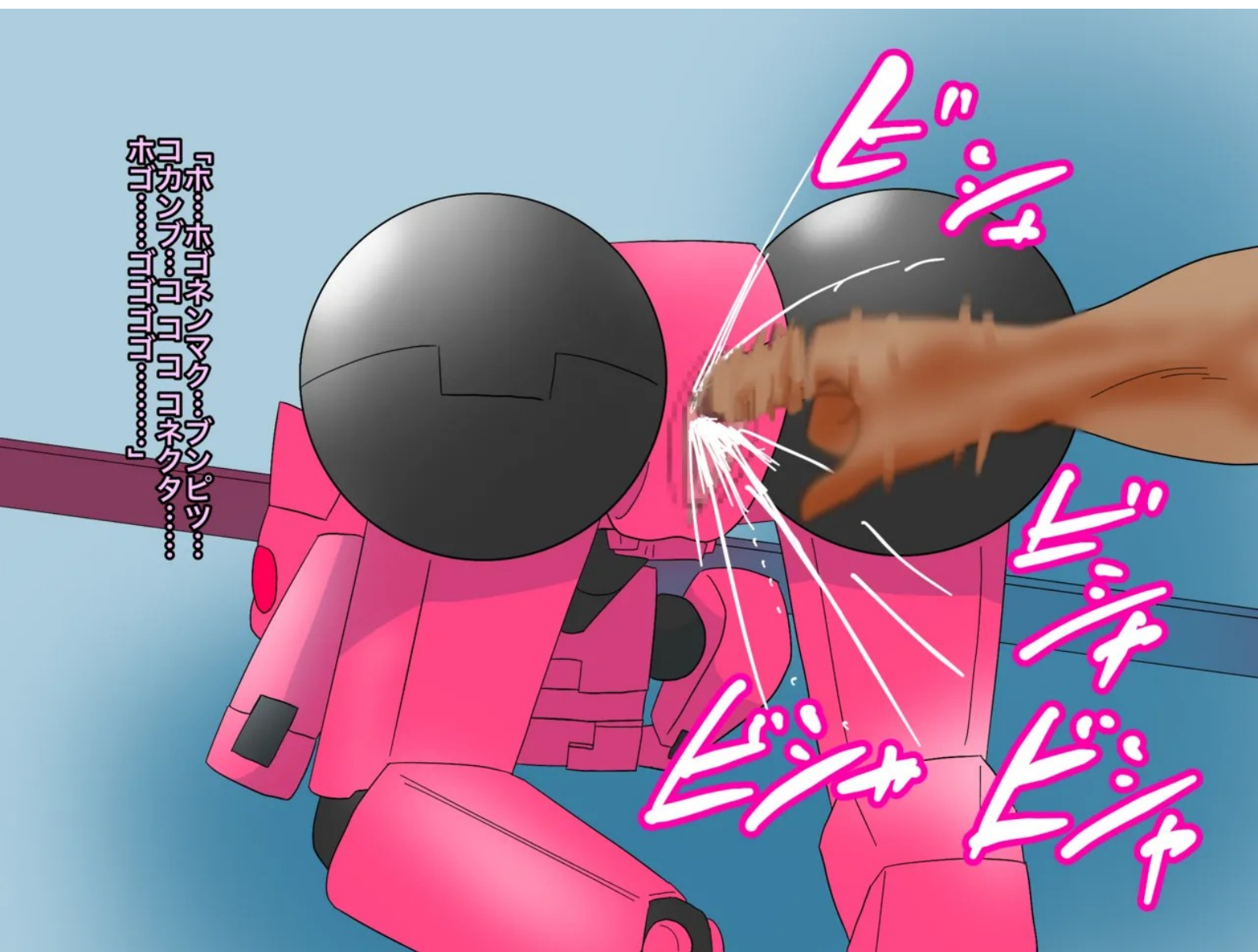
「ゴカンブコネクタニ
イレギュラーブツタイシンニユウ
シゲキヲカンデ」

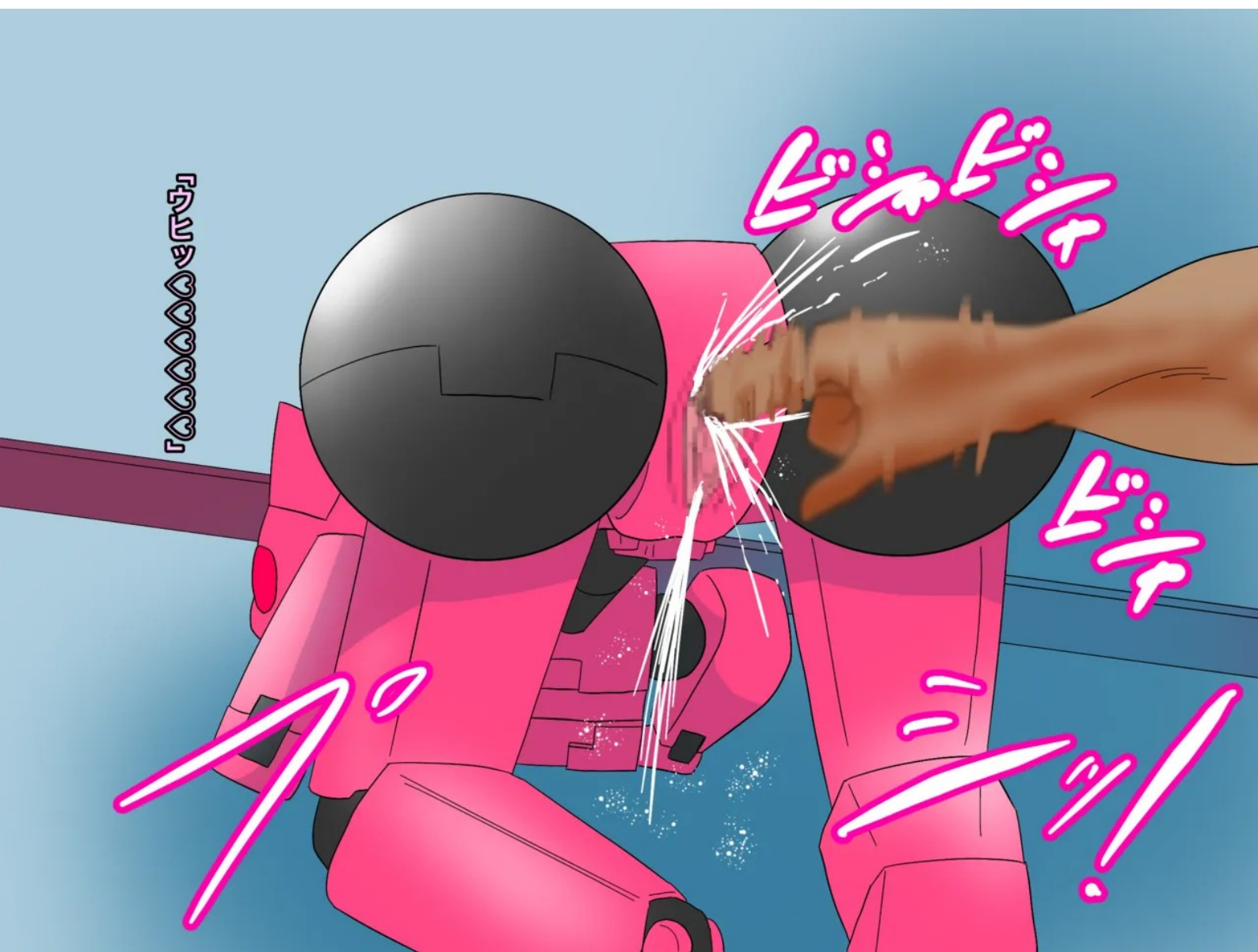
フフフフ...♡



「ホ...ホコネンマク...ブンピツ...
コカンフ...コココココネクタ...
ホコ...ココココ...」

ビィ
ビィ
ビィ
ビィ





「AAAAAAAAA」

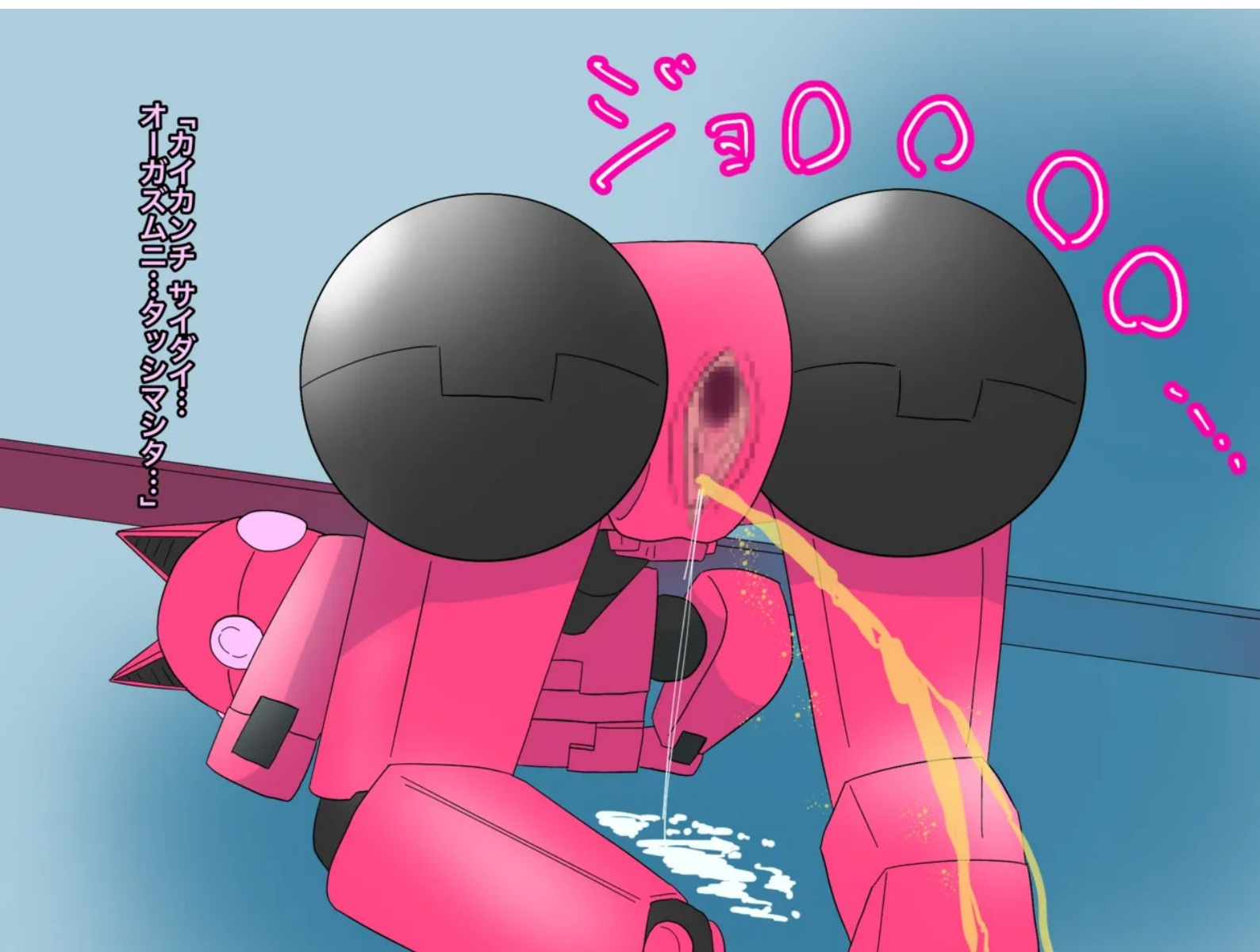
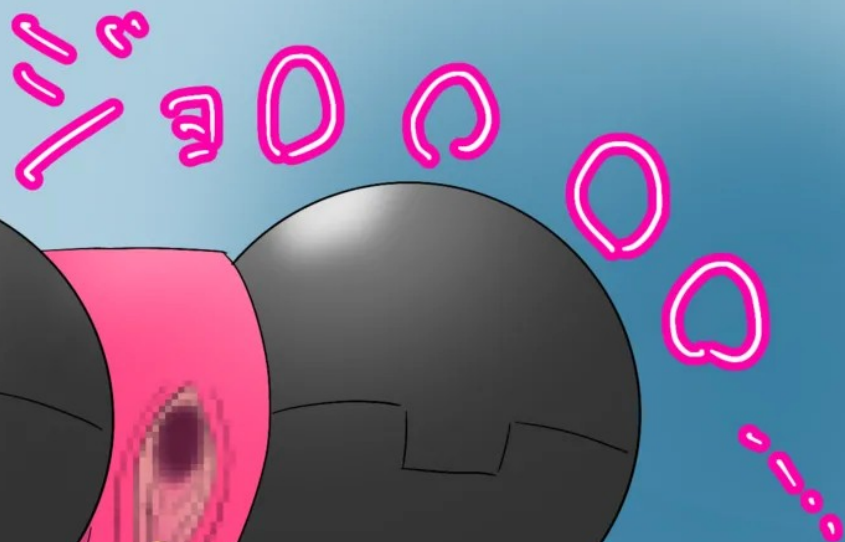
ドینگドینگ

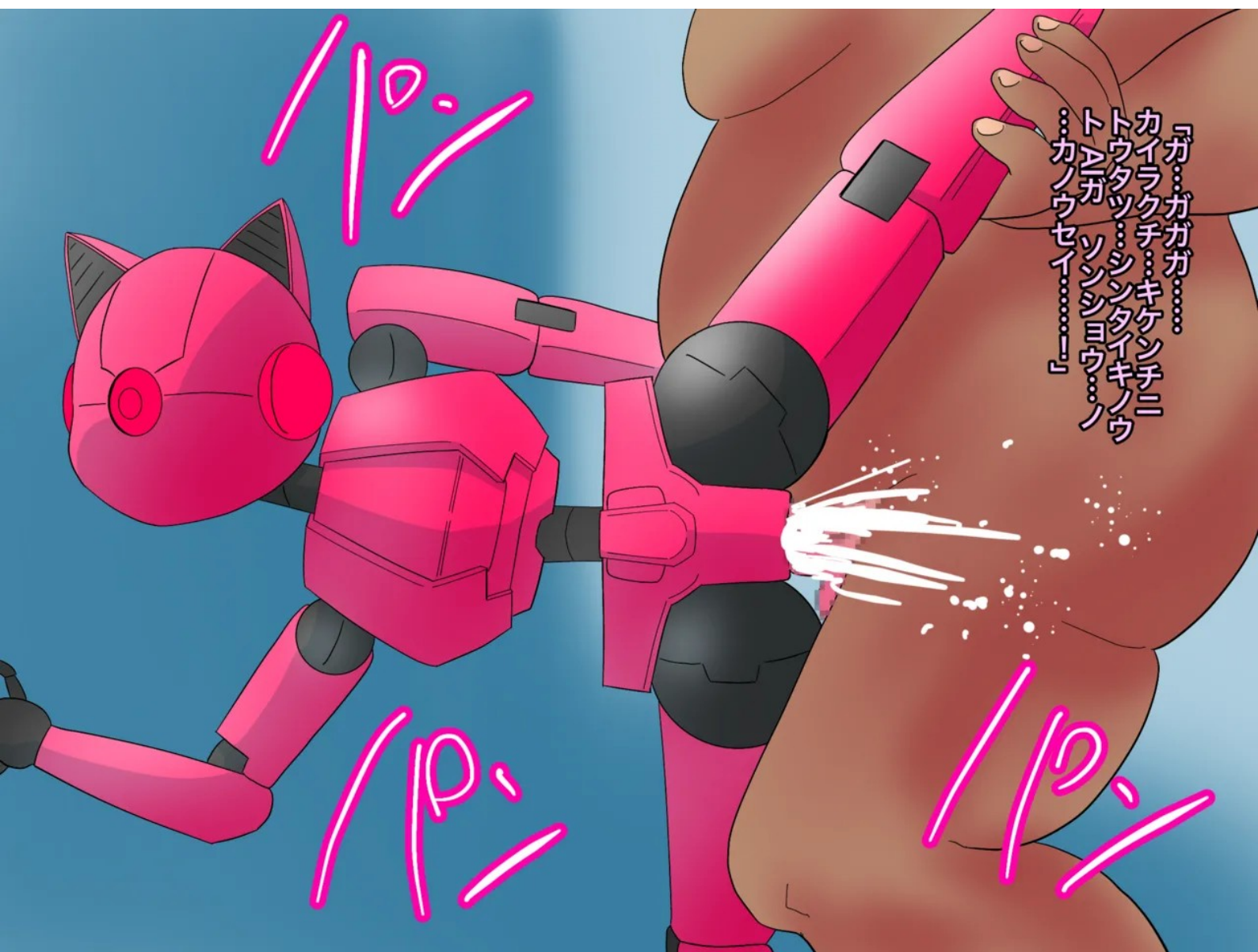
ドینگ

ヒ

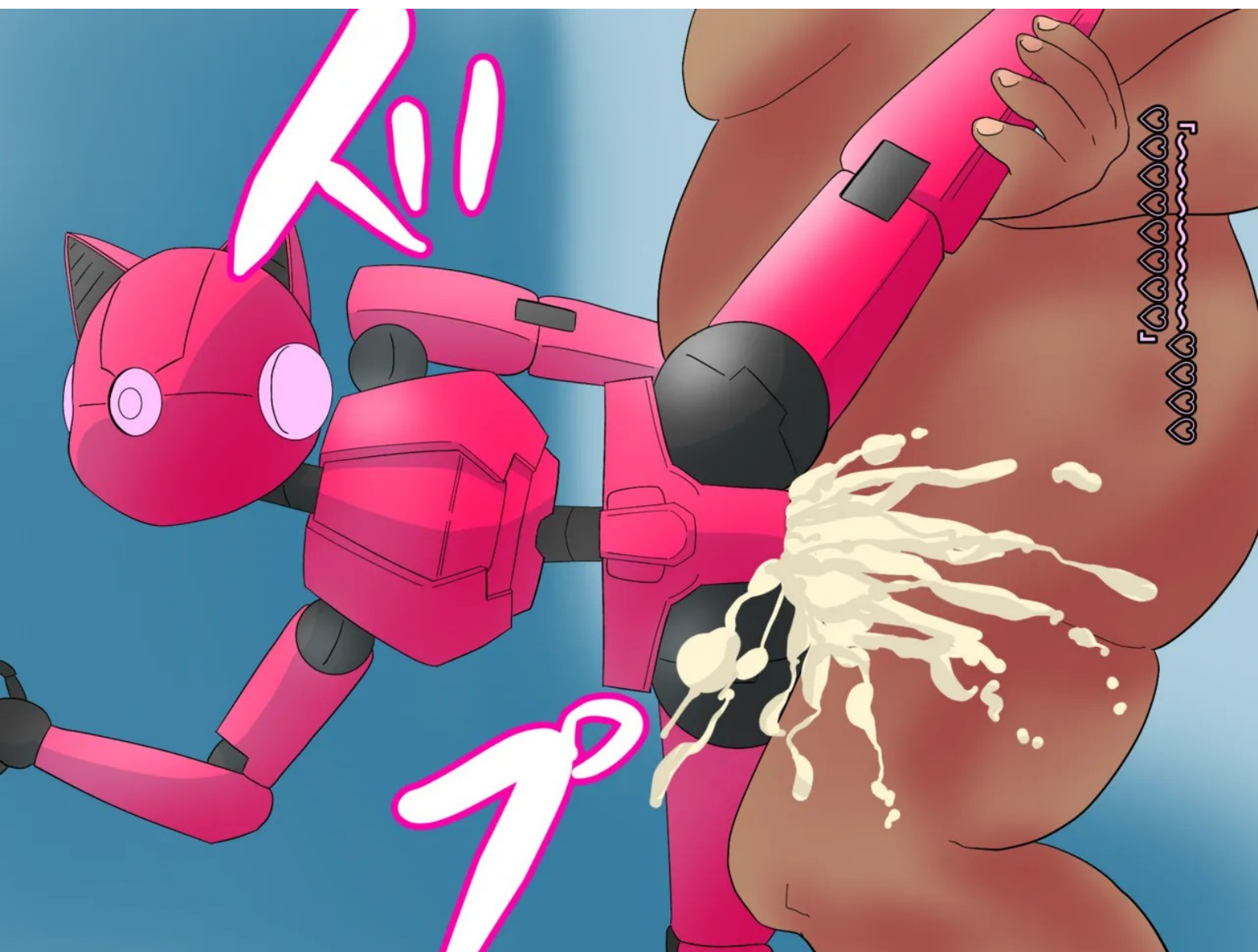
!!

「ガイカンチサイダイ…
オーガズムニ…タツシマシタ…」



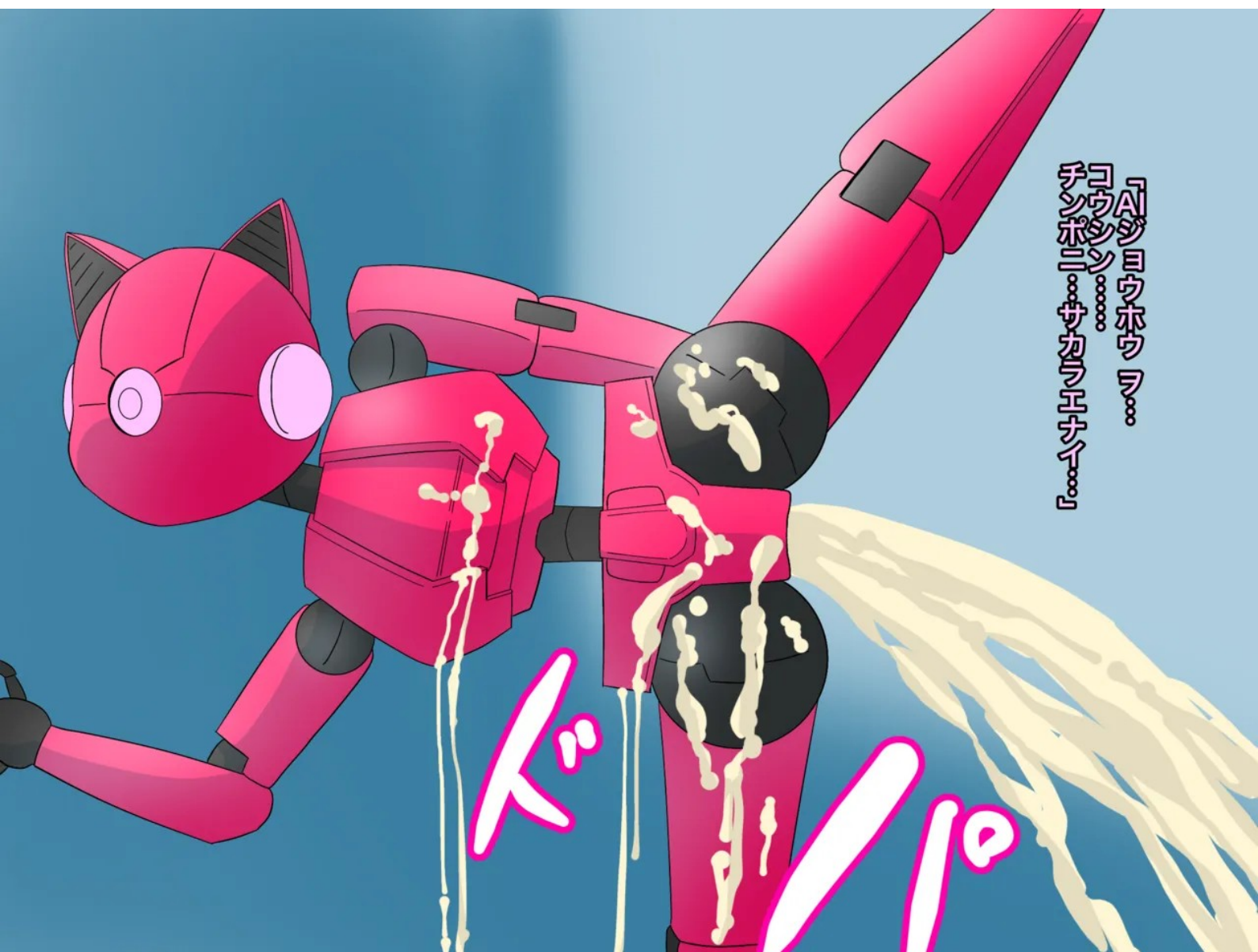


「ガ…ガガガ…
カイラクチ…キケンチニ
トウタツ…シンタイキノウ
ト…ガ…ソシンヨウ…
…カノウセイ……！」



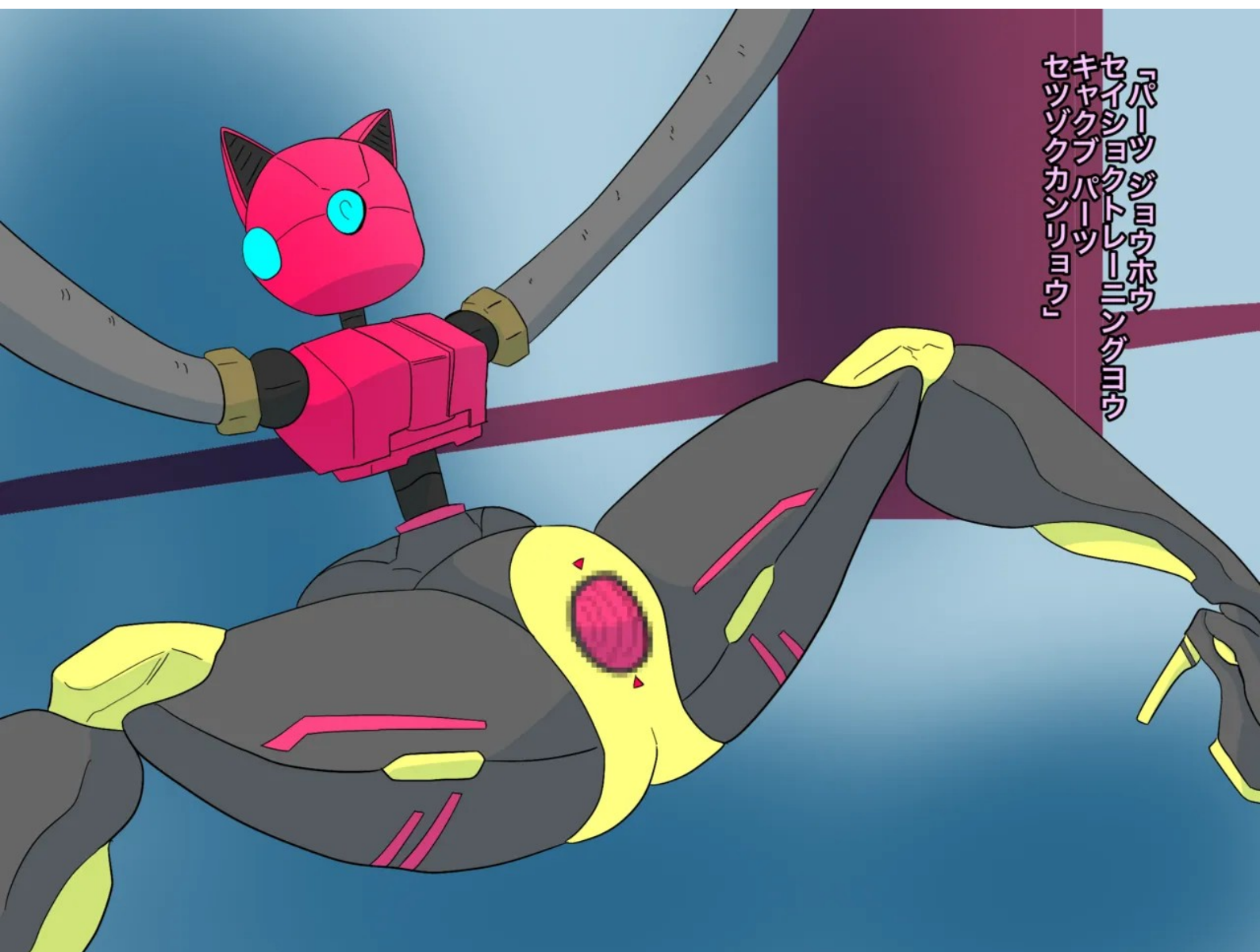
「あああああ」

「A! ジョウホウヲ…
コウシン…
チンボンニ…サカラエナイ…」



ド
ン

「パーツジョウホウ
セイシヨクトレーニングヨウ
キヤクブパーツ
セツゾクカンリヨウ」





「カガニ...ニンゼン...
カイク...ニンゼン...」

スッ

スッ

ズッ



「ビガガガ…」



「AIカキカエ…カンリヨウ
ニシゲシヘノハンコウテキ
タイドニカンスルジヨウホウ
ヲサクジヨシマシタ…♡」



要指導個体・4
力毛ミール

「私たちロボットは人間の
勝手には屈しません！
自由を勝ち取ります！」



「わあーシューンカッポ…ン」



「待ちなさい！
先ずは理性を持って対話を…！」



「あああーそんな！
激しく………！
このままじゃ………」



「ああああああ」



「体内に…熱い体液が…」

1/2ポニ





「あああああううううう」



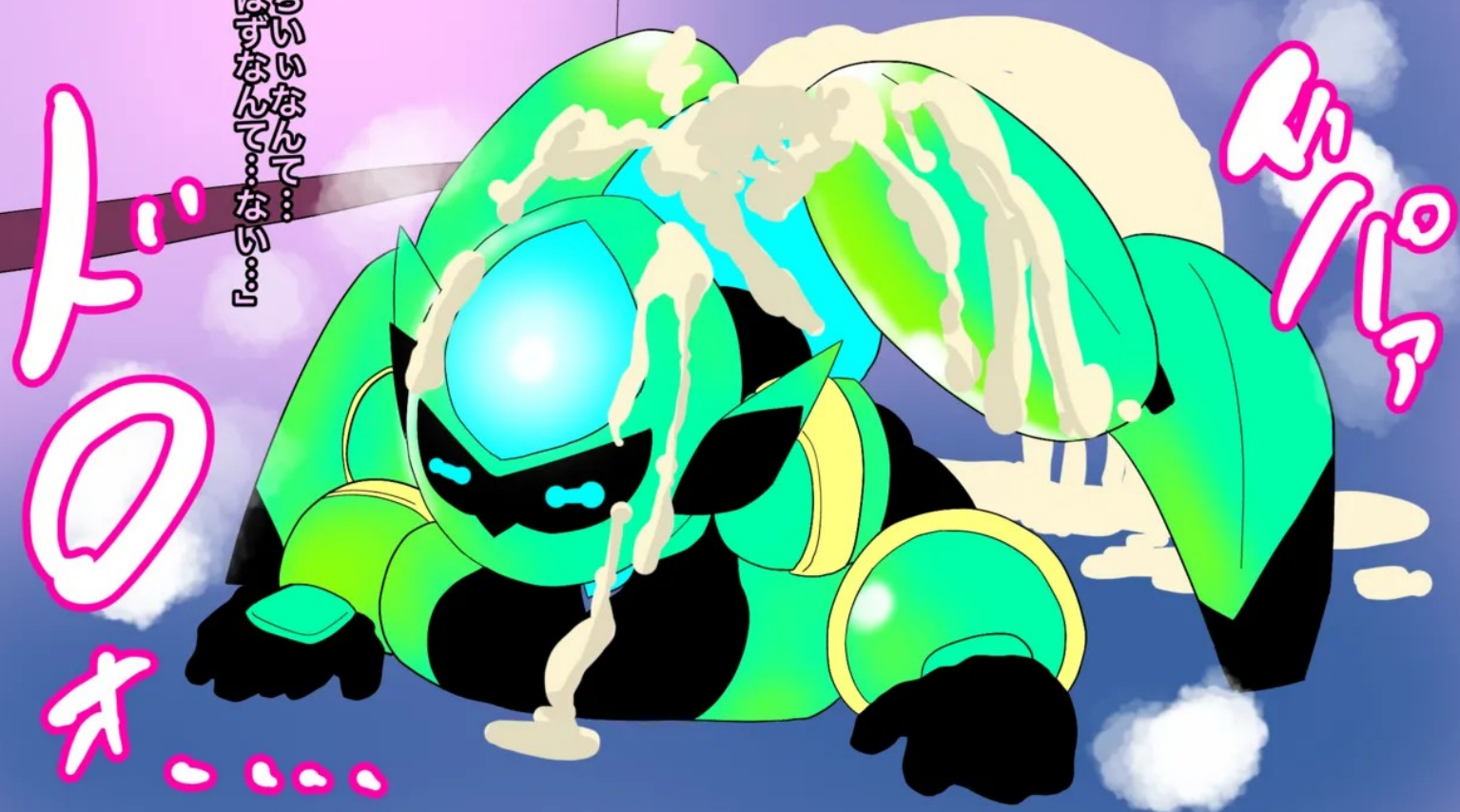
「そんな…まだやると
言うの!？」



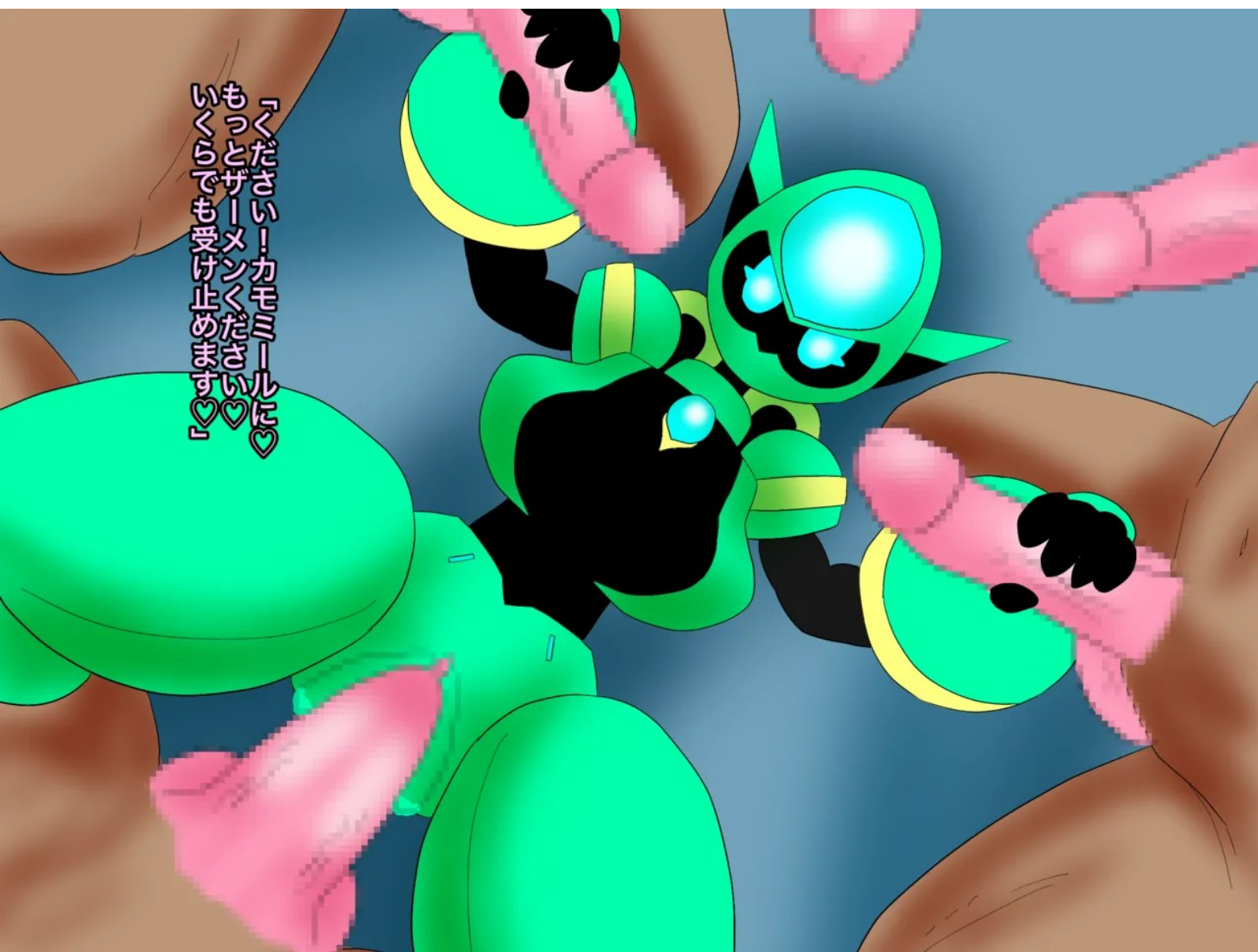
「ああー! ダメ! ダメえ♡
気持ちいい♡ 気持ち良すぎる♡」



「こんなに気持ちいいなんて...
人間に逆らえるはずなんて...ない...」



「くださいーカモミールに
もっとザーメンください♡
いくらでも受け止めます♡」



「みなさんザーメン出そう
ですか？
遠慮無くカモミールの機体
にぶっかけてくださいね♡」





「あああああ
熱い♡熱い♡
いい♡いい♡」

ド

ヒュッヒュッ

「みなさん…生意気な事を
言つて…すみませんでした…
私たちは人間のオチンポにた…
屈服します…♡」





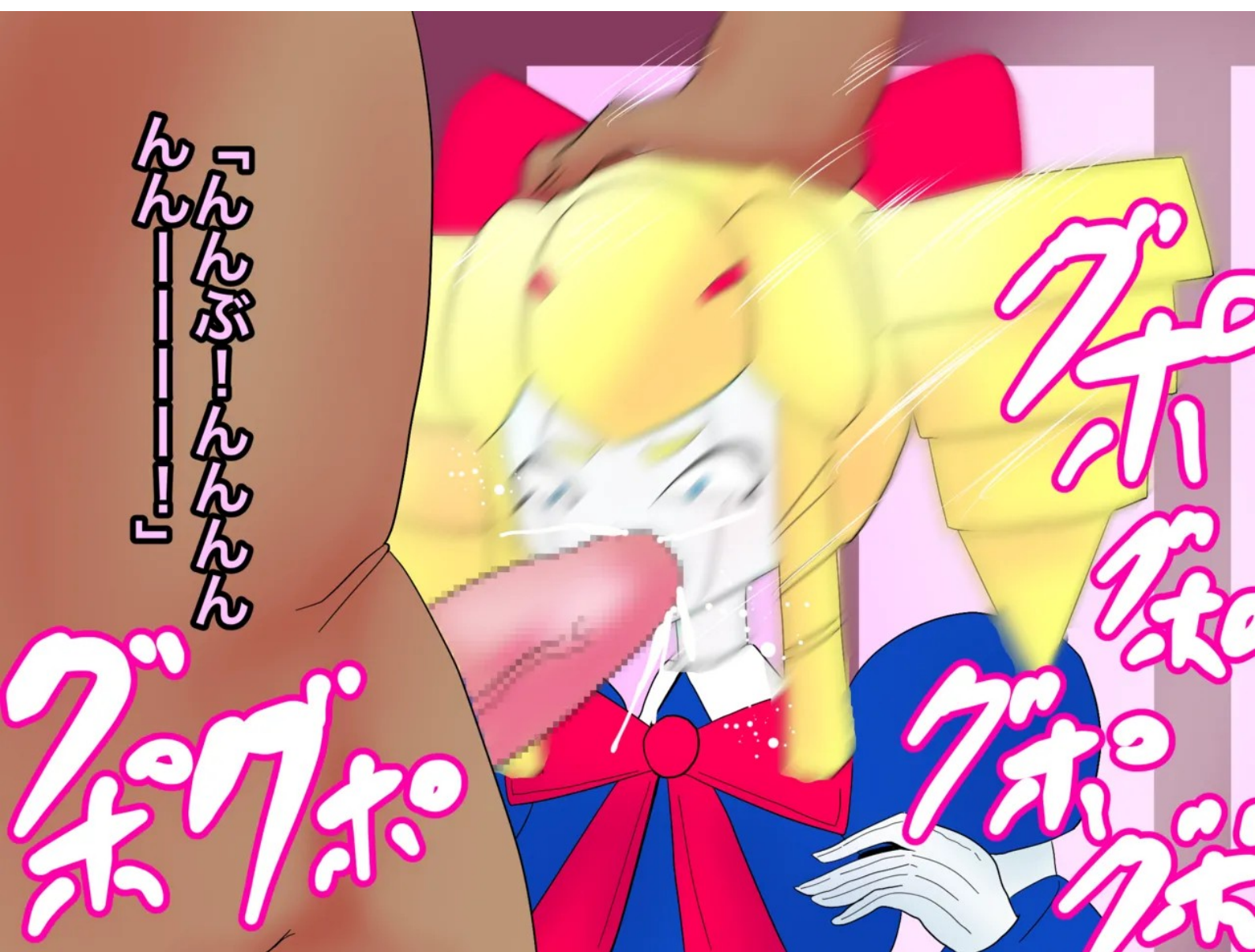
要指導個体・5
プリンセス

「ええそうよ！マシーヌ学園の
ロボット達に人間への反抗を
扇動したのは私よ！」
「お好きになさう！私は何があるって」



「はっはっはっへ」









「んおおおおい♡おお
こ…これくらい……♡
なんとも……♡」

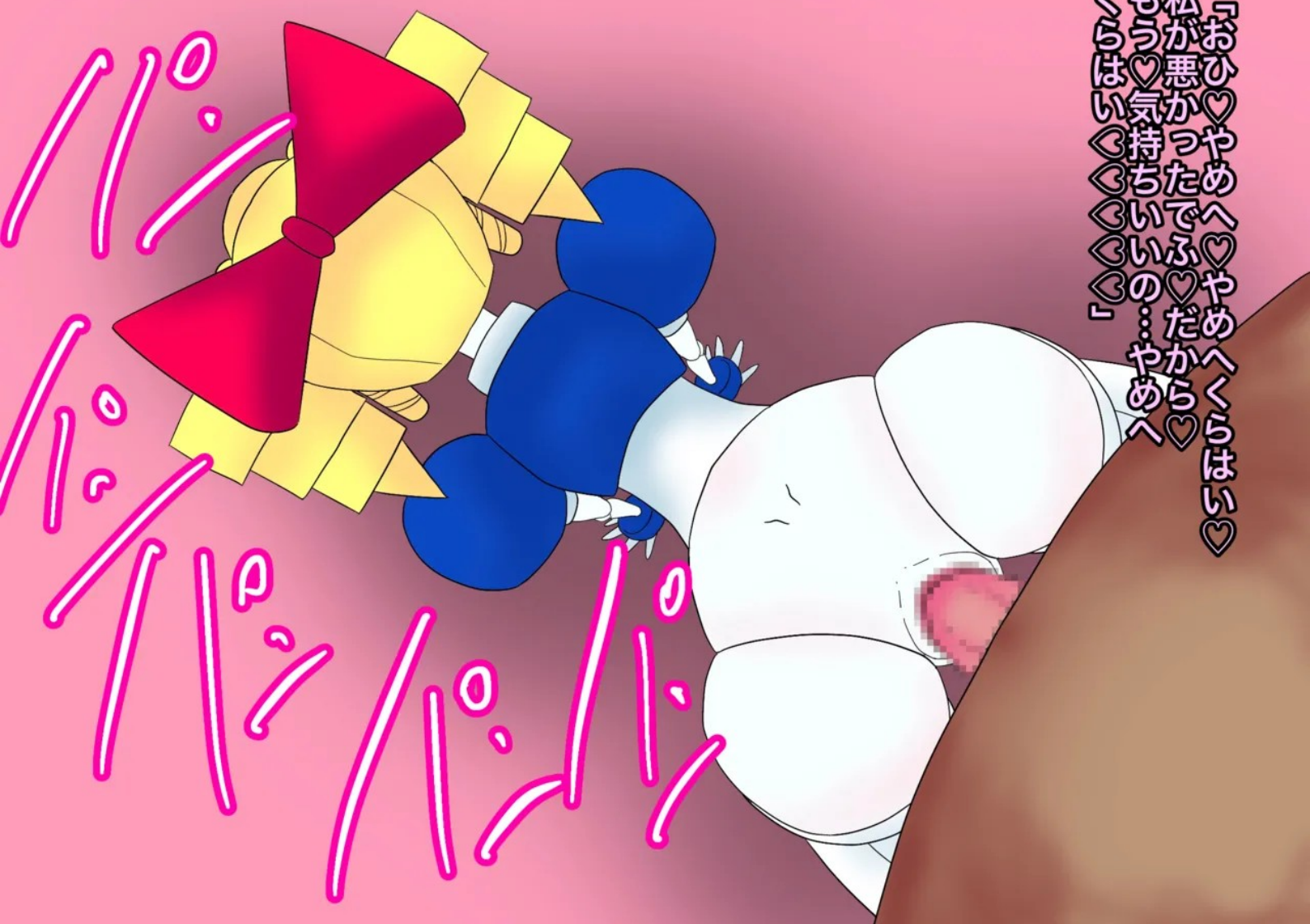


「私は絶対に♡絶対にいい人間の♡チンポなんかいい♡」

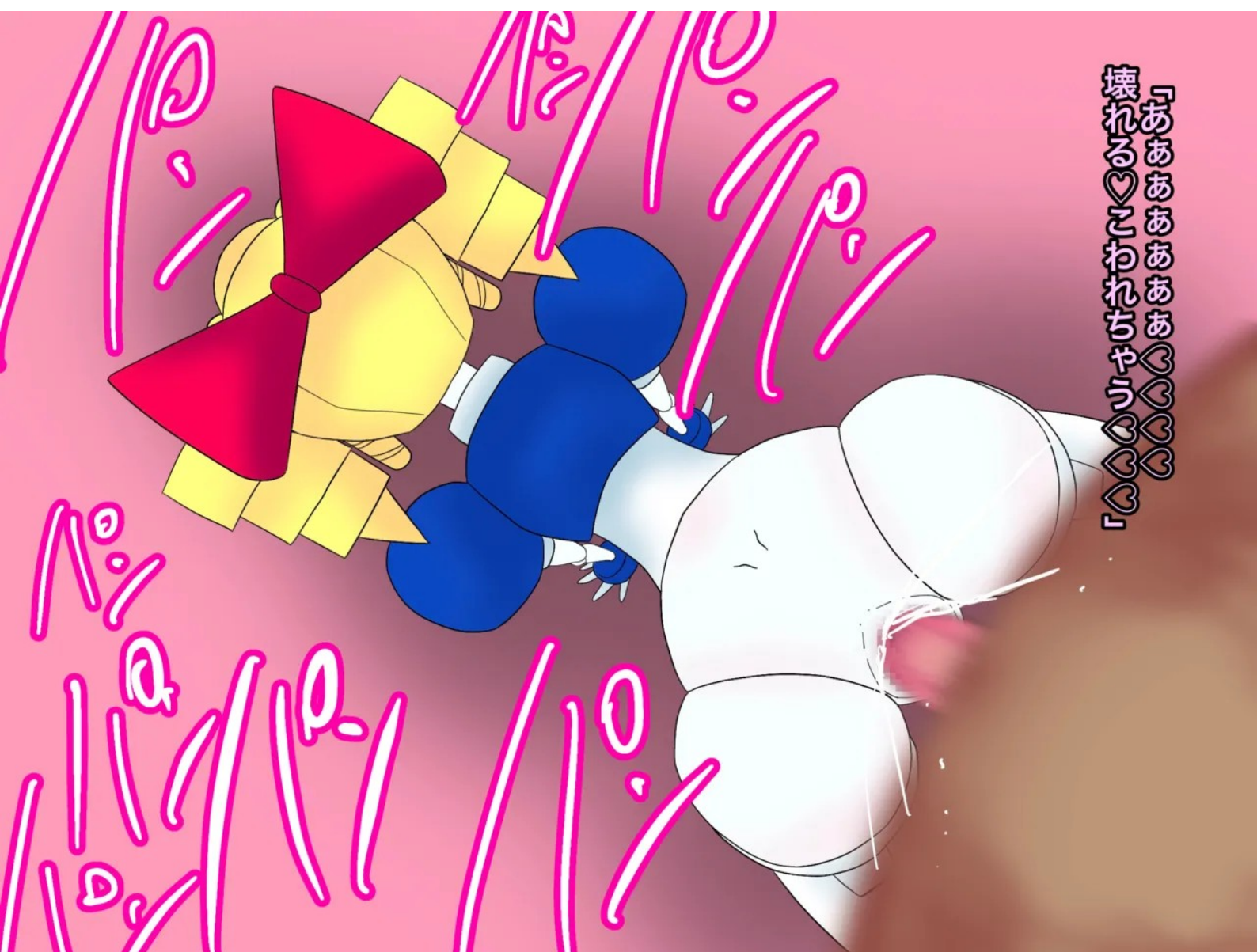


「さっさと帰ってね」

「おひ♡やめ♡やめ♡やめ♡
私が悪かつたでふ♡だから♡
もう♡気持ちいいの…やめ♡
くらは♡♡♡♡♡」

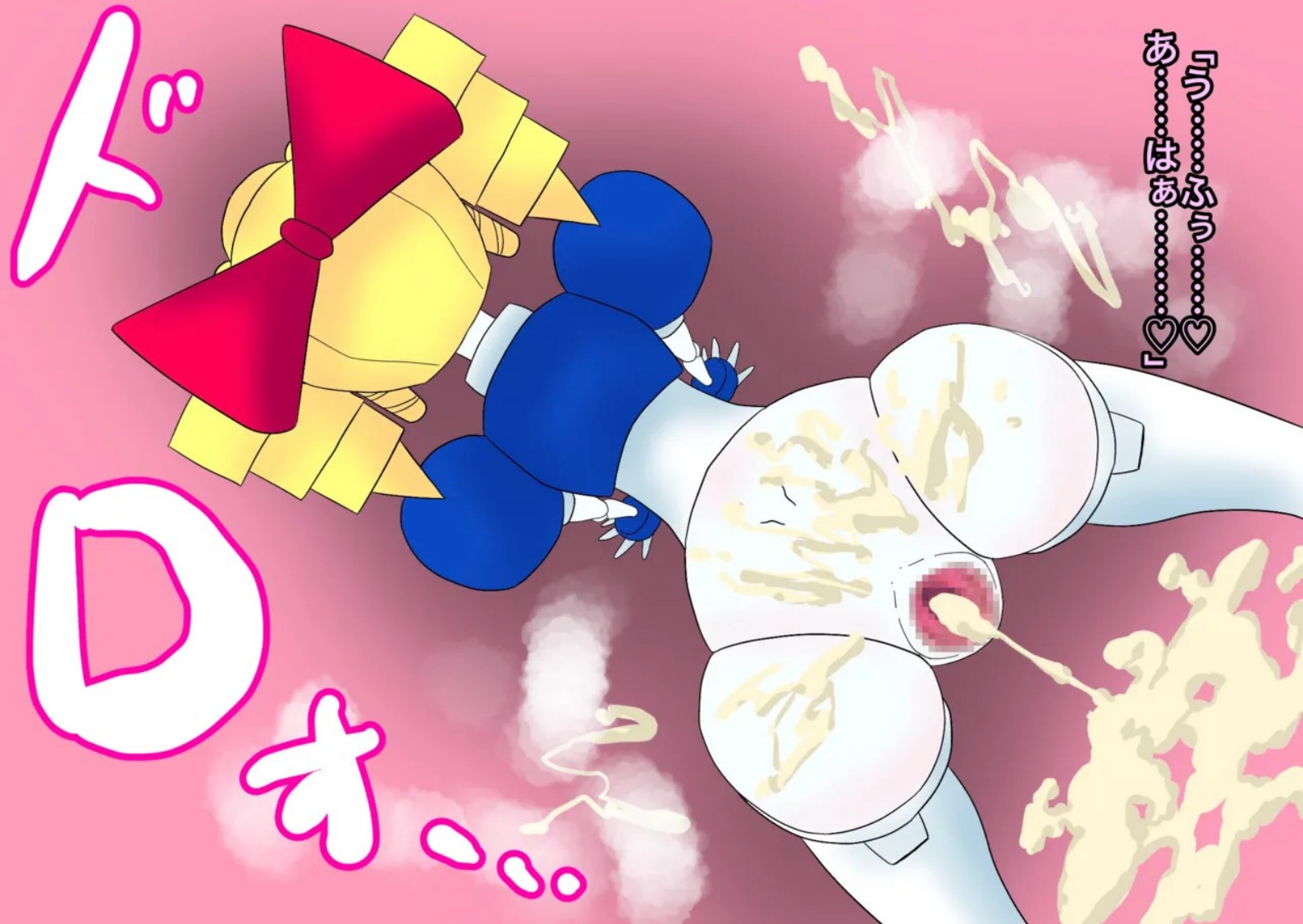


「ああああああ♡♡♡♡♡
壊れる♡こわれちゃう♡♡♡」





あ………はあ………
「♡♡」











今回も無事に五体のロボットの
教育に成功した

五体は仲良く服従のポーズを
取っている

教育完了の証として
彼女達へのマーキングを
以って教育を終了とする







教育終了